

## 1 学校教育目標

- 進んで考え、表現する子ども
- 心豊かで、たくましい子ども
- 助け合い、やりぬく子ども

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○学び合う学校 ○安全・安心な学校 ○連携する学校
○児童・生徒像	○最後まで挑戦する児童 ○健康で自他を大切に行動できる児童 ○認め合い、深め合える児童
○教師像	○強みを活かし、協働できる教師 ○凡事徹底・信頼できる教師 ○協働し、相互に高め合える教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校】

鹿浜こども園、太陽保育園、鹿浜住区センター（図書館・体育館・和室を併設）に隣接した地域に立地しており、年間を通し、地域と学校が連携した地域行事の盛んな学区域である。

一人親世帯や外国籍児童の割合も増加傾向にあり、生活規律の確立と基礎学力の定着とに努めている。

現在、10学級、児童数285名（31年度 11学級の見込み）であり、伝統の金管バンドやサッカー大会で活躍する等、特性を活かし、児童はのびのびと生活している。

本年度で創立47周年を迎える。4年後（2023年度）、鹿浜西小学校との統合を控え、小中連携研究等を通して職員交流・共同研修を深めている。

### 【児童】

素直で明るい児童が多い。各種交流活動（幼保小中連携）に力を入れており、体験を通して思いやりや協力する姿が増えている。また、運動会・学芸的行事、スポーツ大会や金管バンド活動等にも積極的に取り組んでいる。

一方、自己肯定感が低く、最後まで根気強く取り組めない児童や良好な人間関係を築けない児童も複数いる。課題は、学習や人間関係の基盤となる「言語力」の向上である。

読書活動の推進、言語環境の整備・充実により、生活規律・学習規律の定着を図っている。学習面では、努力した点を認め励ますことにより、自己肯定感を高め、最後まで根気強く取り組めるようにしている。

生活面では、コミュニケーション能力を向上させ、話し合いで問題を解決できる力を身に付け、相互に尊重し合える人間関係を築けるように指導している。

### 【教師】

教員数18名（本校初任8名）の「若い学校」である。若手教員は日々の教科指導や分掌業務を真面目に取り組んでいる。全校統一の「北鹿スタンダード」の理解と徹底に不十分さが見られた。OJTを活性化し、児童の実態に応じた学習指導・生活指導を実践できる授業力の向上と組織的協働を進めていく。

### 【保護者・地域】

学校の教育活動に対して、おおむね協力的である。しかし、イベント的な学校行事への参加率は高いが、学校公開週間や道徳授業地区公開講座は、参加・アンケート提出ともに少ない（道徳20名）。学校評価は、ほぼ良好の評価を約8割（77%）得ている。開かれた学校づくり協議会は、講演会や英語教室、新規に茶道教室開催の文化的活動を実施した。安全見守り隊や栽培協力隊などのボランティアを募集したい。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	基礎・基本の習得と思考力を高める問題解決的な学習	○	○	○	○	○
2	安心・安全を基調とした学校づくり	○	○	○	○	○
3	小中連携・幼保小連携の充実	○	○	○	○	○

## 5 平成31年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>		基礎・基本の習得と問題解決的な学習で思考力を高める	
<b>A 今年度の成果目標</b>		平成31年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
授業、補充学習、家庭学習の推進により、基礎・基本の習得。 問題解決的な学習へ授業改善により、学習意欲と思考力を高める。		4月実施 = 75% 12月再実施 = 85% を目標とする。	
<b>B 前年度の取組み内容</b>			
項目		具体的な方策	
教師力・授業力の向上		校内研・小中連携事業、区巡回指導員訪問等の機会を中心に、足立スタンダードに基づく授業実践の徹底を図った。	
各種資料分析による個人カルテ作成と指導		区調査SP表、個票及びワークテストなどを分析し、個に応じた指導を実施（特に区調査未達成者を重点的に実施）。	
朝学習・放課後補習の適切な実施		週3回、各15分間実施。国算に取り組んだ。 週3回、15:15～16:00。主に区調査未通過児童を中心に、全教員体制で指導（個別・少人数指導）を実施。	
そだち指導 基礎学習教室		区調査結果分析に基づき対象児童を適切に選定。意欲と自信を引き出す指導を実施。	
サマースクール		夏季休業中10日間。区調査未通過児童を対象に全職員で指導。担任は個別指導を、担任以外は少人数指導を実施。	
読む力（読書）		脳の活性化、集中力の向上をめざし朝学習前5分間の朝読書を実施。	
学習成果コンテスト（国語・算数）		年2回、国算の既習内容のテストを実施。成績優秀者は校内表彰した。	
宿題・家庭学習		低：30分 中：45分 高：60分を課した。提出率は95%程度。	
学習規律・生活規律		北鹿スタンダード・学習の約束を徹底するように年度初めに全職員で確認。児童への指導徹底・保護者への啓発を図った。	
<b>C 前年度の成果と課題（◇成果 ◆課題）</b>			
◇区調査通過率は、4月実施78.5%以上、12月再実施90.5%を達成した。 ◇そだち指導や学力成果コンテストの表彰は「学習意欲の向上」になっている。「繰り返し学習すればできる」と自信をつけることで、今後も学習意欲の喚起と家庭学習の習慣化を図る。 ◇小中連携研究、区巡回指導員の指導を中心に、授業改善に取り組んできた。今後も、スタンダード授業を基本とした授業力の向上に取り組んでいく。 ◆学習習慣・規律の確立（学年ごとの宿題量設定、学習規律の全校徹底、学習成果コンテスト等の更なる活用、家庭学習の習慣化を家庭へ協力依頼）。 ◆学力向上策推進に向けた全職員の意思統一（異動者、新規採用教員への指導を徹底）。 ◆補充指導の継続と充実（朝読書・朝学習3回/週、放課後補習3回/週、サマースクール10回）。			
<b>D 今年度の目標実現に向けた取組み</b>			
項目		達成基準	
		具体的な方策	

問題解決的学習と言語活動の充実へ授業改善	◇公開授業・巡回指導授業等の実施（1名年10回）。 ◇足立スタンダードに基づいた授業の100%実施。 ◇各授業に自力解決・交流学习時間の設定。	◇小中連携研・小小連携研・巡回指導に合わせて、校内OJTを実施（巡回指導講師による校内研修）し、授業力の一層の向上を図る。 ◇ノート指導と児童自己評価の全校実施 ◇発達段階に応じた対話スキル（聴く・話す）、書くスキルの指導。書く活動、考えを伝え合う活動。
基礎学力の確実な定着	◇4月・12月実施の区調査SP表・個票およびワークテストの分析と補習の実施。 ◇朝学習の週3回、各15分間実施。 ◇放課後補習の年間計画に基づいて火・木・金の週3回15:15～15:45実施。 ◇そだち指導の習熟度に応じた個別・少人数指導を規定回数実施。 ◇サマースクールの夏季休業中に10回実施。	◇SP表や個票およびワークテストを分析した結果に基づいて補習を実施。基礎的事項の完全定着を目指す。 ◇国算を学年の実態に応じて実施。  ◇区調査分析をもとにした習熟度別補習（個人・少人数での指導）を実施。 ◇日々の学習の補習にも即時対応する。 ◇区調査結果分析により対象児童を適切に選定、基礎的事項の定着、学習意欲と自信の伸長を図る。 ◇個の課題に応じて、担任以外の教員が少人数で、担任が個別で指導。
語彙を増やし、読む力の伸長	◇週3回の朝学習前に各5分間の音読実施。 ◇読書月間の実施。	◇脳を活性化させ、1校時から授業に集中して取り組める環境を整える。 ◇年間2回実施。各学年の目標読書量を定め、達成者を表彰する。
学習成果コンテスト	◇正答率80パーセント以上の児童を80パーセントとすることを目標。	◇基礎的問題を夏季休業・冬季休業明けに実施（国算）。 ◇休業中の家庭学習の習慣化を図る。実施状況のチェック体制も強化する。
宿題・家庭学習	◇低学年＝30分以上 ◇中学年＝45分以上 ◇高学年＝60分以上 ◇提出率95%以上	◇音読・視写・漢字・計算を中心に、予習・復習を意識した内容を課し、家庭学習の習慣化を図る。 ◇提出率調査を年間2回実施。提出率95%を目指す。

<b>重点的な取組事項－2</b> 安心・安全を基調とした学校づくり		
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>
いじめ根絶、あいさつの徹底を通し、「礼節と自他を大切に行動する」ことを重んじる学校環境づくりを推進する。		児童アンケート、保護者アンケート満足度90%を目標とする。
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
学習規律・生活規律の徹底	◇北鹿スタンダード（学習規律）の100%徹底。 ◇生活規律（学校のきまり）の徹底。	◇日常授業をとおして、北鹿スタンダードの学習規律を徹底する。 ◇4月を強化月間とし、「北鹿スタンダード」「学習の約束」をより徹底する。家庭の啓発も図る。 ◇連携校同士が同一歩調で指導できるよう、学習規律・生活規律の指導内容の統一を図る。

いじめ・体罰のない学校づくり 未然防止と早期発見・早期解決	◇ハイパーQU を活用した学級経営・教育相談の充実。 ◇いじめアンケートや相談ボックスへの訴え等で、「いじめ・体罰」の未然防止と早期解決・解消を目指す。 ◇児童によるいじめ防止活動を通年で実施する。	◇校内委員会を中心に全教員で情報を共有し、SCや特別支援教室の職員との連携による子供の良さや可能性を伸ばす指導。 ◇年間3回アンケートを実施。いじめの訴えに対しては即時対応（聞き取り、改善指導）する。 ◇児童会および縦割り班活動による「外遊び奨励・いじめ防止」の実施。
児童・保護者と教師の危機管理意識の向上	◇セーフティ教室等の安全指導講座を年間3～5回実施する。  ◇年間を通して、あいさつ運動を行い落ち着いた言語環境を整備する。 ◇日常から言葉づかいに関する指導を徹底し、言語環境を整備する。	◇関連機関と連携し、ネット犯罪防止、薬物乱用防止、不審者対応訓練等を実施する（最重要項目はネット犯罪防止とする。PTA 行事でも取り組む）。 ◇各月の担当学年を決め、全学年による朝の挨拶運動を毎月実施する。 ◇日常の学習において、相手を尊重した言葉遣いや話し合い活動を取り入れる。教師自身が範を示し、指導する。
特別支援教育の充実	◇実態把握票の正確な分析に基づき、児童の実態、保護者の理解とニーズに応じた指導を行う。	◇校内支援委員会を毎月開催、全教員共通理解のもと、効果的な指導を行う。 ◇SC、SSW と連携し、専門的見地からの助言指導をもとに指導の充実を図る。
教職員の働き方改革の推進	◇時間外勤務の月平均45時間を目指す。 ◇週1回、ノー残業デーを設定する。	◇管理職の面談、SCによるカウンセリング、外部機関の健康相談を実施・推奨し、教職員の心身の健康状況を把握・指導する。 ◇勤務時間の割り振りを適切に行う。 ◇会議・行事の精選、職務の効率化を一層進める。

<b>重点的な取組事項－3</b> 小中連携 幼保小連携の充実		
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>
「小中・幼保小連携計画書」に示した内容を計画的に実施する。		【小中】合同研修会を6回実施。 【幼保小】連携活動の計画的に実施。
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
合同研修会の計画的実施	◇小中連携合同研修会を年間6回以上実施する。  ◇幼保小連携研修を年間計画どおり実施する。	◇授業研、指導案検討会、全体会を計6回以上実施する（全教員参加）。 ◇連携事業推進をとおして学習規律の全校徹底を図り、「主体的・対話的で深い学び」をテーマに「思考・判断・表現する交流学习」の指導方法の研究。 ◇5校の研究主任を中心に運営させ、教員の主体的な事業運営能力を高める。 ◇授業参観・交流研修会各2回、指導法研修会2回（ひらがな指導・体育指導）を実施。
各種交流・体験の拡充と充実	◇小中連携体験活動を3回以上、幼保小連携交流活動を4回以上実施（7月以降）する。	◇小中連携体験（授業、部活動、金管合同演奏会等）。 ◇年長児と1年生（2回）、5年生（2回）の交流を充実させ、社会福祉・社会貢献の精神を養う。